

平成30年度 第1回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成30年10月16日（火） 午後3時10分～午後4時10分

場所：5階カンファレンスルーム

出席者：教育課程編成委員 A～F 6名

（学内）G～N 8名

書記：看護学科教員

1. 校長挨拶

本日は、卒業生2名を含めた外部委員の方々に、当校のカリキュラムの編成、強化に向けてご教示をいただきたい。学生の知識、技術だけでなく主体性をつちかいていけるよう、本校での学び、教育内容の強化となるよう活発な意見を賜りたい。

2. 議題

平成30年度教育課程編成に基づく運営状況について（中間報告）

【看護学科】

L委員説明 資料I（P1）表1参照

① ICL S講習修了認定者の拡大

本年度は、講習会開催は前年度と同様4回を計画し、すでに2回終了している。現在27名の認定を受け、残り2回で18名が受講・認定予定で3年生が全員認定の見込みである。サマーオープンキャンパスにおいても好評であった。次年度は学生人数も多いため全員が受講できるよう開催を拡大できるよう調整していく。

② 看護基礎技術の教材の工夫

3月には全6項目がDVD化となった。次は、新しく滅菌ガウンのたたみ方を予定している。手順がわかりづらいうえ、映像化をすることで、わかりやすくなり技術の習得へとつながることを期待している。

③ 国家試験対策の充実、進研アドの導入

平成29年度国家試験合格率は96.2%であり、全国平均91%を上回っているが全員合格を目標としている。新たに国家試験専門業者東京アカデミーと連携していく。また模試結果の分析をおこない、低回答問題に関しては教員全員で問題を作成し対策している。模試を受けるにあたって既卒生も3年生と一緒に模試を受けられるよう、就職先とも連携している。

入学前教育として、低学力者の入学前からの学習習慣をつける目的で進研アドの教材を導入している。入学前の3月のオリエンテーションでテストを行い、事前に学力を把握できている。入学後もインターネット教材のクラッシュに移行し週2回問題を配信し、現在は解剖の問題を配信している。今後は週4回、5回と増やし3月まで配信する予定としている。

④ 卒業前技術強化

去年は1日で実施したため、タイムプレッシャーもあったと思われるが、学生は一生懸命行っていた。今年は時間的にも調整し、臨床を据えた技術になるよう実施していく。

⑤ 実習指導の充実

発問リストについては継続している。4月から小グループを活かし、学習の強化をはかっている。承諾が得られた受け持ち以外のカルテを5分から10分程度情報収集を行い、データや看護の方向性など繰り返し見ていくことで、学習の拡大を行っている。これは、趣旨をご理解いただいた施設に限って行っている。またグループで一問一答、教員から質問を行い、学生同士の刺激に活かしていく。

全体実習で、実習前後の伸び率をみている。支援の必要な学生を洗い出しすることに繋がっている。1年生では2.6点、2年生では2.7点平均で上がっている。

精神看護学実習では今までは10日間のうち5日間は病棟実習、5日間は地域実習であった。この度、実習の見直しをおこない病棟実習を5日間から9日間に増加、地域を5日間から1日DICに変更していく。地域が不足しないようデイケア・デイナイトを1日行う。

A委員：地域包括ケアシステムが構築される中、1日だけのデイケア・デイナイトで補う事が出来るのか？

M委員：作業中利用者はその作業に集中されており学生がなかなか会話をもつことが困難な状況であった。またマンパワーになっている現状である。5日間では長く、看護の視点で行うことが難しい。地域に関しては、病院での退院支援や訪問へつなげていく。

C委員：国試対策では学生が何冊の問題集を使っているのか？学校として何冊持つようにされているのか？

どの参考書を使っているのか、教えていただきたい。

L委員：学校は1冊としている。参考書も東京アカデミーのものを使用している。

E委員：基礎技術のDVDを使用することでスキルチェックもしやすいと思う。DVDが増える中で卒業前に基礎を見直すことはされないのか？

K委員：卒業前は現場で使える技術を想定して行っている。

E委員：卒業前技術指導は自分たちもあったが、実際に就職した際に基礎が頭にはいっていなかった。卒業前技術では既卒生などに参加をお願いして、現場での要点など含めもらってはどうか？最終確認は教員でおこなっては？

K委員：検討していく。

【介護福祉学科】

N委員説明（資料Ⅰ P2 表2参照）

① 国家試験対策について

国家試験の過去問題からの的を絞って学習につなげている。実施した模擬試験5回から低回答のものを教員がポイント抑えて繰り返し行っている。チューター制を取り全体的に成績は上がっている。

② 外国人留学生について

現在2年生にベトナムから1名、1年生にベトナムから5名、中国から2名、合わせて8名が入学している。グループワークや学生同士で学校生活を送っている。日誌の添削、漢字の宿題、日本語能力検定対策を行い日本語の習得や理解の促しにつなげている。7月に日本語能力検定3級試験を3名が受験し2名が合格となった。

③ 地域貢献活動について

11月に新田東須賀地区「和みの広場」を予定、勝間地区で「いきいきサロン」を予定し現在調整中。

B委員：チューター制はどのようにされているのか？

N委員：クラスの中でグループを作りその中に教員が入る。

B委員：何名程度のグループか？

N委員：4名程度のグループ。

D委員：ベトナムの実習生は日本語がとても堪能であった。指導する人が必死でやらないと到達度が達成できない。学生をどう仕上げるのかは教員の情熱が必要と思う。そういった外国人学生の受け入れ態勢はどうなっているのか？徳山大学は熱心にされている。事務局的な窓口も決めてまとめる必要ではないか？また入学する選考試験のレベルは？

J委員：介護は作文と面接となっている。指定校推薦の場合では10分の面接のみ、看護は特別指定校、指定校推薦は面接のみで、推薦、社会人は小論文と面接、一般は国語と数学と面接となっている。留学生は通常10分の面接を20分程度行い、作文も1時間で400文字、さらにN3程度の基礎問題も課している。

D委員：メンタルの部分で課題のある受験生はどうしている？雇用する立場では1人の人材に対してもう1人必要になる。

J委員：入り口である面接で見抜くことは難しい。疾患があったと入学後に聞いたりする。ふるいにかけづらい。

D委員：就職して黙っていても長続きしない。

J委員：留学生においてもYIC全体で取り組んでいる。メンタル面を含む学生相談は学校だけでなく、YIC本部の中に専門のカウンセラーがおり直接相談できる態勢も整っている。実習時、就職時にはそこも開示している。

【両学科共通事項】

H委員説明

① キャリアサポート体制について

本人の目指す就職先にできるよう願書の書き方や面接等サポートし、本部のキャリアサポート室と連携、また看護、介護の教員とも連携を取りながら行っていく。

② 地域住民・高校生を対象にした医療福祉分野の啓発活動では8月11日に植木先生の講演会をアスピラートで実施。介護、看護の学生を踏まえディスカッションも行った。高校生の参加は少なく目標とするターゲット層まで周知することはできなかったが地域の方々が多数参加され、地域貢献をすることで知名度が高くなったと思われる。地域にYICが浸透していけば学生募集にも繋がっていく。

F委員：地域貢献するためには人やものやお金が必要となってくる。予算を組んだりしているのか？

J委員：学生の自治会があるので、そこで補っている。

G委員：本校は防府の災害避難所にもなっている。

議事について、全員一致で承認

司会

第2回教育課程編成委員会は来年2月の開催の予定である。

以上をもちまして、平成30年度第1回教育課程編成委員会を閉会する。